

蚕豆壊疽モザイク病に関する研究

第1報 発生誘因について

深野 弘*・横山佐太正*

FUKANO, H. & Yokoyama, S. Studies on the Broad Bean Necrotic Mosaic
(1) Some Factors Influencing the Development of the Disease

1. 抵抗性の品種間差異 1953～1954年の2ヶ年に亘つて試験した結果、品種間差異が顕著で、福岡、佐賀、熊本の各在来種(芦刈在来)は弱、清水早生、愛媛長莢、長莢蚕豆は稍強、房州早生は極強であった。

2. 播種期の早晚と発病との関係 11月5日から12月5日までの間に4回播種した結果、遅播ほど発生が少かつた。

第1表 播種期の早晚と発病との関係試験成績(1953)

播種期	発病株率(%)			
	I	II	III	平均
11月5日	80.0	55.6	64.7	66.8
16	18.2	45.5	36.4	33.4
26	12.5	11.8	36.4	20.2
12月5日	0	6.2	21.4	9.2

備考：品種 熊本在来，調査 1954，3.17.

3. 種子から病土までの垂直距離と発病との関係 病土が種子の直下に接する場合と下方1寸の距離にあ

第2表 種子から病土までの垂直距離と発病との関係試験成績(1954)

垂直距離	発病株率(%)				発病程度 (3.31)
	2月19日調査	3.7	3.23	3.31	
0寸	23.5	70.6	88.2	88.2	卍
1	35.0	60.0	85.0	85.2	卍
2	7.1	17.8	42.9	42.9	卍
3	0	0	0	3.7	卍
4	0	0	0	4.0	卍
5	0	0	0	0	卍

備考：品種 福岡在来，播種 11月6日，発病程度 卍は生育阻害顯著 卍はその半ば程度を示す。

る場合に発病率高く，2寸では半減し，3寸及び4寸では更に少く，5寸では発病しなかつた。

4. 播種後病土にある期間と感染との関係 播種後20日までに無病土に移植したのものには発病を認めず，24日以後の場合に発病した。

第3表 播種後病土にある期間と発病との関係試験成績

病土にあつた期間	1952			1953		
	結果	移植月日	移植時の生育程度	結果	移植月日	移植時の生育程度
10日				-(0/14)	11.16	催芽程度
14	-(0/29)	11.15	子葉展開			
20				-(0/20)	11.26	本葉抽出始め
24	+(1/29)	11.25	本葉 3~4枚			
34	+(1/12)	12.5	本葉 4~5枚			
50				+(5/17)	12.26	本葉 5~7枚

備考：品種 さぬき長莢 熊本在来
播種 11月1日 11月5日
調査 3月31日(1953) 3月17日(1954)

結果の()内は発病株数/調査株数を示す。移植の際は，根部の土粒を肉眼的に認めないまでブラシで洗滌し更に石鹼水で10分間洗滌後流水1時間浸漬水洗した。

* 福岡県農業試験場